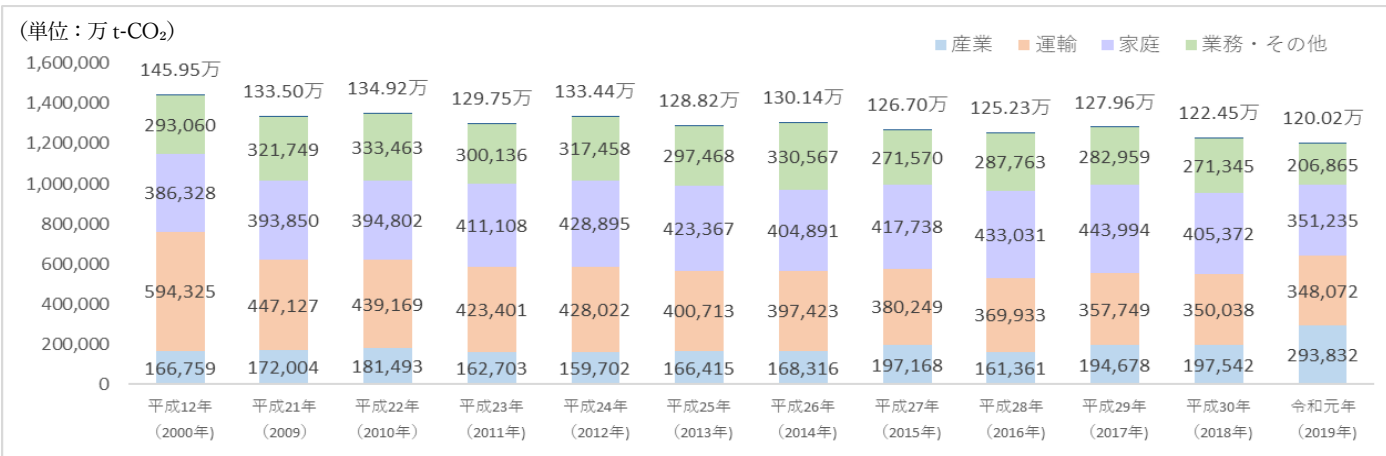


環境モデル都市の取り組みについて(概要)

1. 帯広市内からの温室効果ガス排出量の推移

- 平成31(令和元)年度(以下、令和元年度とします。)における帯広市の温室効果ガス排出量は120.02万t-CO₂です。
- 基準年(平成12年度)と比べ17.8%減少、前年度(平成30年度)と比べ2.0%減少しました。
- 前年度と比べると、家庭部門、運輸部門、業務その他部門による排出量が減少しました。
- 家庭部門による減少は、家庭での太陽光発電システムなど再エネ・省エネ設備の導入が進んだほか、市民の省エネ行動が定着してきていることが要因と考えられます。
- 運輸部門による減少は、エコカーが普及していること等が要因と考えられます。



※行動計画策定時の排出係数に固定して算出

2. 環境モデル都市行動計画の取組による温室効果ガス削減量の推移

- 第1期の温室効果ガス削減量は、計画値に対し7割程度の進捗程度でしたが、第2期では9割以上、令和元年度は10割を超えており、着実に削減実績が伸びてきています。
- 令和元年度は、適正な森林整備による温室効果ガスの吸収量の増加のほか、家畜排せつ物等の利活用の推進や事業者による太陽光発電システムの導入が進んだことにより、温室効果ガスの排出量削減が順調に進んでいます。

(単位: t-CO₂)

	第1期					第2期					第3期				
	平成21年(2009)	平成22年(2010)	平成23年(2011)	平成24年(2012)	平成25年(2013)	平成26年(2014)	平成27年(2015)	平成28年(2016)	平成29年(2017)	平成30年(2018)	令和元年(2019)	令和2年(2020)	令和3年(2021)	令和4年(2022)	令和5年(2023)
計画	27,137	44,814	61,404	78,998	120,957	139,998	158,452	176,832	197,210	224,294	251,628	270,638	289,400	308,185	327,035
実績	18,096	33,958	42,349	56,848	84,372	132,110	148,998	167,328	191,651	219,132	255,033				
達成率	66.7%	75.8%	69.0%	72.0%	69.8%	94.4%	94.0%	94.6%	97.2%	97.7%	101.4%				

※行動計画策定時の排出係数に固定して算出

令和2年度の取組の進捗状況、令和元年度の温室効果ガス排出量・吸収量・削減量を、以下のA~Eの5つの指標で評価するものです。

A: 取組の進捗

- 令和2年度の取組における進捗状況は、「追加/前倒し/深掘り」を行ったものが14件(25%)、「ほぼ計画通り」が39件(70%)、「予定より遅れ/予定量に達せず」が3件(5%)であり、概ね順調に取組が進んでいます。
- 家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業に協力し、おびひろ動物園内に設置した純水素型燃料電池等による発電を開始し、来園者への環境保全に対する普及啓発を行いました。また、地元農協等とコンソーシアム協定を締結し、これまで廃棄していた小麦くずを燃料とする小型バイオマスバーナーの実証を行うなど、豊富に賦存するバイオマスの地産地消に寄与する取組を推進しました。
- 小中高生を対象とした環境にやさしい活動実践校や帯広らしい環境教育プログラム、市民を対象とした出前環境教室等の環境教育により、地域に環境保全の実践行動が広がっており、家庭部門における温室効果ガス排出量削減の促進に繋がっています。また、JICA北海道(帯広)では、開発途上国の研修生に地域資源を活用した環境保全を目的とする研修をオンラインで行っており、新型コロナウイルス感染拡大の防止を図りながら市内に留まらず国外にも広く環境保全の啓発を図っています。

B: 温室効果ガスの削減・吸収量

- 温室効果ガス排出量は前年度と比較すると、実排出係数で算出した場合5.8%の減少となっています。また、毎年変動する排出係数の外部要因を排除するため、行動計画策定時の排出係数に固定し算出した場合2.0%の減少となっています。
- 行動計画の取組による温室効果ガスの削減量は、25.1万t-CO₂の削減目標に対して25.5万t-CO₂となっており、達成率は約101%となっています。

C: 地域活力の創出

- 環境リサイクル施設の集積と緑のネットワーク形成による温室効果ガス削減・吸収を目指す、中島地区エコタウンの造成に向けて用地を取得したほか、一部区域を多目的広場とする造成工事を行いました。
- 食品を加工する際に生じる残差を活用したバイオガスプラントの運用、家畜排せつ物等の堆肥施用が順調に進んでおり、廃棄物の削減とともに地域資源の域内循環に寄与しています。

D: 地域のアイデア・市民力

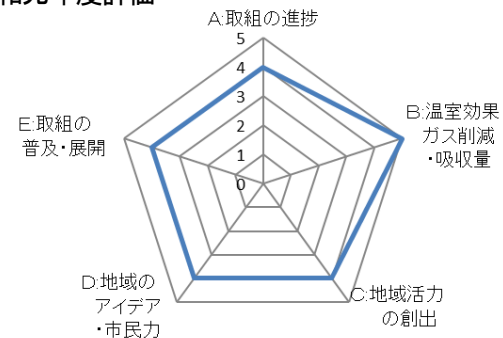
- 家庭から発生する庭木の剪定枝を無料回収し、チップ化して家畜敷料や堆肥として有効活用しています。
- 家庭用廃食用油の回収や清掃ボランティア活動など、市民参加型の取組が定着しています。家庭からの廃食用油の回収量は増加してきており、地元路線バスに軽油の代替燃料として活用しているほか、廃棄物の削減にも繋がっています。

E: 取組の普及・展開

- 広報紙や地元ラジオ局との連携等により幅広く市民に情報発信し、COOL CHOICEの普及促進を図りました。
- 十勝定住自立圏構想の枠組みを活用し、6~9月に、十勝管内19市町村の自治体職員が一斉にマイカー通勤の自粛に努める「とちち一斉ノーカーデー」を実施しました。帯広市だけでなく、十勝管内の自治体職員が一丸となりマイカー自粛の普及啓発を行いました。

3. 令和2年度の取組評価

令和元年度評価



令和2年度評価(案)

